

一般財団法人京都ボーイスカウト振興会

平成 29 年度（平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日）

事業報告

1. はじめに

加盟員の減少が止まらず 35 年が経過しました。平成 30 年 4 月 1 日現在の登録数は、6 地区 58 こ団 228 こ隊、2,564 人（スカウト 1,303、指導者・団役員等 1,261）、最盛期のほぼ 4 分の 1 の組織となります。合計数は高度経済成長期の昭和 38 年度と変わりませんが、その内実や社会環境は大きく異なっています。

日本連盟の団診断によりますと、京都連盟の各団は次のとおり B,C,D ランクとなり、8 割はスカウト 40 人に満たない団です。

S ランク	スカウト 100 人以上：	0 こ団
A ランク	〃 65～99 人：	0 こ団
B ランク	〃 40～64 人：	12 こ団
C ランク	〃 20～39 人：	26 こ団
D ランク	〃 19 人以下：	20 こ団

京都のボーイスカウト運動を振興するうえで、活動の単位である「団・隊」の実情に応える支援と、持続可能な体制づくりが、喫緊の課題です。現代社会にスカウト運動がどのように投影されているのか、社会常識を踏まえつつ未来への可能性を信じての英断が必要です。

ボーイスカウトの認知度アップには、ホームページを「ボーイスカウトの魅力を発信しよう」という日本連盟のキャンペーンに同調した内容に改定し、新作動画 6 点の拡散を促しました。

魅力ある活動は、魅力ある先輩が夢を実現させるところから広がります。京都連盟が初めてアフリカヘローバースカウトを派遣した「ガーナ派遣」は、社会貢献と人道支援に活動の枠を広げた点で画期となりました。

スカウトを導くには指導者の情熱が欠かせません。ワークライフバランスが強調される時勢にあって、指導者が情熱を維持し、地域や職場でも、輝く人材として存在感を発揮できるように、定型非定型を問わず支援いたしました。

これらの成果の一つとして、平成 29 年 12 月 17 日に「京都連盟スカウト活動報告会及び指導者全体研究集会」が京都テルサ大会議室で開催され、179 名の参加がありました。主な内容は、海外派遣報告、ローバースカウトの集い、スキル研修のほかに、特別講演「スカウトの魅力を発信しよう-日本連盟広報計画-」がありました。

また当該会計年度は、維持会費収入が 2,470 千円と前年度比△22 千円となりました。

2. 事業報告の内容

(1) ボーイスカウト行事等に対する助成協力事業

(ア) 助成の対象

京都府下において、ボーイスカウト運動の趣旨を理解し、組織的にボーイスカウト運動を行う団体として、京都連盟を助成対象とした。

(イ) 助成の趣旨・用途

ボーイスカウト運動にかかる講習・実修・研修・キャンプに要する経費、スカウト派遣に要する経費、その他ボーイスカウト運動に欠くことができない重要な行事のために必要となる経費

(ウ) 事業実績

事業費として、総額 1,300 千円を支出した。京都連盟の進歩費、国際費、安全費、環境費、コミッショナー費、イベント費、ボーイスカウト講習会及びウッドバッジ研修所運営費等に必要となる事業費の一部に対して助成した。

(エ)

(参考) ボーイスカウト講習会の実施状況

名称	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
期日	4月16日	6月18日	9月24日	11月26日	2月4日	3月4日
会場	京都市 西京区役所	京都市 西京区役所	本門佛立宗 本山宥清寺	舞鶴市 由良川学園	豊園自治 連合会館	上一乗寺 集会場
参加者	23名	33名	18名	11名	12名	10名

(参考) ウッドバッジ研修所等の実施状況

名称	団委員研修所 京都第12期	WB研修所スカウト 京都第1期	WB研修所BVS 部門別京都第1期	WB研修所CS 部門別京都第1期
期間	7月15-17日	9月15-18日	10月14日	10月15日
会場	京都市野外活動施設 花背山の家	広河原 野営場	静原キャンプ場	静原キャンプ場
参加者	17名	18名	6名	10名

(2) 青少年の育成を目的とした自然体験活動のためのキャンプ企画事業

(ア) 体験活動の所在地

広河原野営場：京都市左京区広河原尾花町27番地

(当法人所有：山林22,559平方メートル、原野521平方メートル)

(イ) 体験活動の運営主体

日本ボーイスカウト京都連盟

(ウ) 体験活動に参加が予定されている対象者

青少年の育成を目的とした組織団体に無償提供する。

(エ) 体験活動に参加した対象者、使用月日、使用人数等

使用者	使用月日	使用人数	備考
1. 山開き	4月8日 - 9日	16人	サポート委員会
2. WB研サウトコース所員会議 トレーニングチーム研究集会	6月3日 - 4日	13人	サポート委員会、所員 トレーニングチーム
3. 野営場整備	7月23日	16人	サポート委員会
4. 野営場整備（草刈り）	7月29日	2人	サポート委員会
5. WB研サウトコース開設	9月14日 - 18日	45人	サポート委員会、所員、参加者
6. // 片付け	9月24日	15人	サポート委員会、所員
7. 冬ごもり整備・倒木処理	12月2日 - 3日	20人	サポート委員会
8. 京都第82団ボーイ隊	12月16日 - 17日	3人	隊キャンプ
9. 京都第68団ボーイ隊	2月12日	10人	日帰り雪中プログラム
合 計	17日	140人	

(オ) 事業実績

広河原野営場建物の減価償却費 80,730 円・固定資産税 4,300 円が主な費用実績である。

(カ) 広河原野営場近隣における舎営施設土地建物の取得又は賃借について

利用状況がはかばかしくなく、当面見合わせる。

(3) 指導者養成のためのプログラム企画運営事業：「連携」

(ア) 趣旨

ボーイスカウトの指導者が、テーマを設けて研修する催しに青少年の育成を指導する人としての素養を涵養するために、企業人、教育者等の有識者を講師に迎え、オープンに一般の参加者も迎え、セミナー等を実施するものである。

(イ) 事業実績

平成 29 年 12 月 17 日に「京都連盟スカウト活動報告会及び指導者全体研究集会」が京都テルサ大会議室で開催され、179 名の参加があった。

- スカウト活動報告会（ガーナ派遣、APR、富士野営、ベンチャープロジェクト）
- ローバースカウトの集い
- スキル研修（ソング、通信、計測、観察、自然愛護）
- 特別講演「スカウトの魅力を発信しよう ―日本連盟広報計画―」
講師：磯山友幸氏（日本連盟理事、社会連携・広報委員長）

(4) 国際交流・国際貢献活動、社会に役立つ事業活動、環境・まち美化活動支援のための共催事業：「イベント」

(ア) 国際交流・国際貢献活動支援

- － 第1回ボーイスカウト京都連盟ガーナ派遣
平成29年9月10日－18日 指導者2名、スカウト4名
- － 第31回アジア太平洋地域（APR）スカウトジャンボリー（モンゴル）
平成29年7月23日－8月3日 指導者1名、スカウト2名
- － 第7回韓国・京畿南部連盟派遣
平成30年1月5日－8日 指導者4名、スカウト8名

(イ) 社会に役立つ事業活動支援

一般青少年を対象にした事業は、スカウト仲間を増やすためにも、各地区・各団で工夫したプログラムが実施され、この一般向けの案内のためにホームページを活用した。

- － 全国都道府県対抗女子駅伝競走大会（1月14日） 659名
 - － 全国車いす駅伝競走大会（3月11日）600名
- 走路沿道の自主整理員としてスカウトと指導者が奉仕した。

(ウ) 環境まち美化活動支援

「みどりの募金」活動には、各団が春と秋に奉仕した。

また、京都市「まち美化運動」には、例年「世界の京都・まち美化市民総行動」（11月5日）に65名のスカウトと指導者が参加した。

(5) ボーイスカウト運動の振興及び普及宣伝事業：「広報」

ホームページのアクセス数が増えるよう、リニューアルを図った。

(ア) ホームページの充実により、組織内外のコミュニケーションを促進する。

- ① 一般の子どもや保護者が参加可能な団主催「スカウト体験と説明会」や地区主催「バーランド」「カブラリー」等、スカウトの日（ゴミ拾い等の奉仕活動を実施する日）等について、ホームページにて告知し、地域の青少年の参加を促した。
- ② ボーイスカウト・指導者等のボーイスカウト関係者、維持会員、並びに不特定多数の皆様に対して、ホームページを通じて、当法人の事業計画等・京都連盟の事業計画等を適時に適切な範囲でディスクローズし、健全な運営を行った。
- ③ ボーイスカウト運動の振興を図るために維持会員及び潜在的な維持会員に対して、ホームページを通じて、会費の協力を依頼した。
- ④ OBの復帰受け皿としての「サポーター制度」を確立し、ホームページを通じて公募した

(イ) 事業費実績

主な事業費は、ホームページ運営改革費（389千円）と法人維持会員等に配布したスカウトカレンダー2018購入費用（68千円）を支出した。

(6)財源の確保（維持(賛助)会費の入金状況）

維持(賛助)会費の入金内訳は以下の通りです。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
維持会費収入額	2,190 千円	2,080 千円	2,450 千円	2,492 千円	2,470 千円

当該会計年度は、維持(賛助)会費収入が 2,470 千円と前年度比△22 千円となりました。

引き続き、役員の方には、21 世紀を担う青少年の健全な育成の場としてのボーイスカウト運動を、地域社会の方々の認識を高めるのにご尽力をいただき、広く財政的援助を頂戴していただけるように努力して頂き、維持会員数の拡大に一層のご協力をお願いする次第であります。

以上